地域に根ざした文化活動は若者も望んでいるんです その場をつくるのが私の役目

人 HITO

渡辺　重一さん
（市民劇団銀杏の会　演出家）

「劇団は心意気やフィーリングなど、メンタルな部分が多いんです。団員の期待と信頼が一番大切です。若者と共通の目的を持つことが自分の健康づくりにも役立ちます。創る喜び、見る楽しさをみんなと共有したいですね。」

渡辺さんは高等学校の教師として在職中、飯能高校に転勤になったのをきっかけに浦和から狭山に越してきました。その後、所沢高校、所沢西高校と歴任され、狭山市だけでも担任した教え子が５００人以上いらっしゃるそうです。そんな渡辺さんと演劇の出会いは高校生の時。新聞社の新人小説に応募したのがきっかけで創作に興味を持ち、大学では戯曲や演出を手掛けました。教壇に立ってからも「若い世代の演劇活動を側面から手助けしたい。」とクラブ活動で演劇を指導しながら、昭和50年に狭山、所沢の市民を中心に市民劇団銀杏の会を結成、11月に所沢市民会館で旗揚げ公演を行って以来23年間、狭山・所沢両市を演劇活動の中心の場としてきました。

渡辺さんは「地域文化に参加しようとする若者に境界はありません。手作りの芝居で住んでいる土地を文化の発信地にしたいんです。世代を超えて共感して欲しいんです。」とおっしゃいます。そしてその渡辺さんが劇団を続けてこられたのは地域の人びとの理解と協力があってこそ。みんなが「育てよう、伸ばそう、つぶさないようにしよう。」と温かい目で活動を支えてくれました。みんなのやさしい気持ちに触れることが多く、そのことが渡辺さんが狭山を好きになった一番の理由だそうです。

11月22日（土）に所沢市民文化センターで上演されるミュージカル「マッチうりの少女」に向けて猛稽古の真っ最中。渡辺さんもキャストと一体になり、指導にも一段と熱がこもります。

現在劇団には65人のキャストとスタッフがいます。12月から3月にかけて書いた台本をもとに、4月にオーディションを行って配役を決定し、7月までに骨組みを作ります。夏から公演に向けて集中し、一気に爆発するかのごとく本番に臨みます。ここで渡辺さんが徹底しているのは「オーディションまでは劇の内容をみんなに一切話さないこと、〝ちょい役〟は絶対につくらないこと。」だそうです。

今、渡辺さんの頭の中には3年先までのミュージカルの構想が詰まっています。みんなの気持ちを吸い込んで創る手作りの芝居で、渡辺さんはこれからもたくさんの人を魅了してくれることでしょう。

私の趣味

ちぎり絵

堀越てる子さん（狭山台在住）

子どものころから絵を描くことが大好きで、小学校の時には授業で描いた絵が教室の後ろに貼られるのが楽しみでした。結婚して子どもたちが小学校に入学し、自分の時間が持てるようになってからいろいろな手工芸を勉強するようになり、絵だけでなく、人形や造花、押し花、焼き物、染め物などあらゆるものにチャレンジしてみました。ある日、私が油絵を描いていたところ、学校から帰ってきた息子に、筆を洗うシンナーの匂いが二階まできて頭が痛くなると言われたのです。そこで和紙をのりで貼るちぎり絵をはじめました。それ以来、公民館や銀行のロビーなどを会場に展覧会を開いたり、人に教えるようになりました。早いもので今年で31年になりますが、絵やちぎり絵を通じて多くの人と出会えたこと、話せたことが大変勉強になり、これが私の財産だと思っています。今は老人会に入ってご近所の人たちとちぎり絵をしながらおしゃべりをしたり、一緒に作品の出来ぐあいをお話ししたり、楽しく過ごしています。私の大好きな「あなたの隣り人を　自分と同じように愛せよ」という言葉をモットーに、これからも頑張っていきたいと思います。

人と人との交流は国をこえてとても大切なもの さあ“LET'S TRY!!”

REPORTER'S EYE

【リポーター】
宮本　真佐美さん（柏原在住）

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることがら、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがリポートします。

「Shall we dance？」8月6・7日に開催される入間川七夕祭りの名物となった阿波踊りでも、「ＳＩＦＡ連」はみんなと一緒に会場をねり歩きます

話す言葉は違ってもみんな友だちなんです

狭山市には、現在約1千３００人の外国人が生活しているそうですが、日本に来て間もないと日常生活の中でも日本語に不便を感じることでしょう。そんなかたがたのために、狭山市国際交流協会（ＳＩＦＡ）では「日本語と生活文化教室」を行っています。今回は協会の安永さんのご案内で教室におじゃましてみました。毎週火・日曜日に行われているこの教室には約20名の生徒さんが参加し、その人にあった教材と方法で、協会のかたがマンツーマンで指導している、とても和やかな雰囲気の教室です。交流はこんな身近なところからはじまっています。

ところで、皆さんは国際交流協会って何だかご存じですか？「ＳＩＦＡ」はＳＡＹＡＭＡ　ＩＮＴＥＲＮＡＴＩＯＮＡＬ　ＦＲＩＥＮＤＳＨＩＰ　ＡＳＳＯＣＩＡＴＩＯＮの頭文字を使った合成語です。市民が主体となり、身近な生活の場で幅広い国際交流と異文化の友好親善を深め、狭山市の国際化をすすめることを目的に平成3年に設立されました。協会は市役所3階の国際文化課に事務局を置き、現在は約４００名の会員が、いろいろな分野でボランティアとして活動していらっしゃいます。

日本語教室はとても和やか。使っている教材も、絵本や幼稚園からのおたよりなど、身近なものばかり

協会では、広報誌の発行や、研修を行う総務部会、芸術・文化を通した異文化相互理解を目的とした文化部会、学習講座の企画・運営にあたる学習部会、姉妹都市、交流都市の協会との交流を図る渉外部会、イベントや各事業を支援するふれあい部会の５つの部会に分かれ、積極的に活動しています。また、このほか全体の活動として新狭山中原公園で毎年開催される「あじさい祭りならびに国際親善の集い」などのイベントへの参加、狭山市の姉妹都市である韓国統營市、協会独自で交流をすすめている市民交流都市アメリカ合衆国ワージントン市との交流事業、ＳＩＦＡ年忘れパーティーの開催などだそうです。狭山市在住の外国人のかたは、協会を通じて普段会えない同じ国の人に会えて話がはずむことや、年忘れパーティーで無料国際電話サービスを利用して母国の家族と話せることが、とてもうれしいそうです。

「国際交流」という言葉を聞くと構えてしまいがちですが、難しいものではないと思います。「近所に外国人がいるけれど、何か力になってあげたい。友だちを紹介してあげたい。」皆さんもそんな気持ちを持ったことがあるのではないでしょうか。互いに「文化が違う」という認識は必要ですが、どうしたらみんなが住みやすくなるか接点を持たなければならないと思います。人と人との交流は国をこえてとても大切なものです。これからの国際社会に向け、国際交流協会の活動に期待したいと思います。

12月の「ＳＩＦＡ年忘れパーティー」は、友だちに会えるので、みんなとても楽しみにしています

狭山市国際交流協会
（国際文化課内、内線379）